

『坊様わらび汁だが、今朝ゆでだ(あく抜き)ばかりでにかつべげんじも』といってご馳走した。

旅僧は老婆の親切に大変喜んで食べた。

そして、『婆さん大変ご馳走になった。また元気で旅することが出来る。それにしてもわらびはゆでないし食べられないとは不便なものよ。お札に今度から、ゆでないで食べられるわらびにして上げよう』といって、呪文を唱えて立去った。

その後、老婆が取って来た所には、ゆでなくてもそのまま煮て食べられるわらびが生えるようになった。苦くないのでこの村では、「甘わらび」と呼ぶようになった。この旅僧は、弘法大師であったと伝えられている。

小中十日市俗に申内と赤坂と呼ぶ山の、限られた面積にしか生えなくて、普通のわらびより細く早く生えるわらびを『甘わらび』と呼び弘法様のお授けと伝えられている。(話者 古川 明)

## ねんがら杉

《新 田》

新田部落の西北、梓衝字門無地内に通称「ねんがら」と呼ばれている円谷正人氏所有の田圃がある。

甘わらびの出る十日市の山

